

### ① 環境保全活動

- 14回開催
- 延べ286人参加
- 活動箇所面積約 6,200m<sup>2</sup>

#### 成果

新たな試みとして、西の草原へのチガヤの移植、防水シートを敷設した貯水実験を実施した

#### 今後の取組み・課題

イベントの準備、猛暑・雨天により計画より作業がやや遅れている



# 活動報告 (4月1日～11月21日)

## ② 保全活動ミーティング

- 7回開催
- ミーティング(6月以降午前  
の活動時間内に実施)168人
- 現地活動(6月以降午後に活  
動や話し合いを実施)70人

### 成果

時間と内容を分けることで、  
ミーティングの参加者が増え、  
午後の内容が充実した

### 今後の取組み・課題

より多くの参加者の発言を  
促す雰囲気づくり

### 保全活動ミーティングの様子



## 活動報告（4月1日～11月21日）

## ③ 事業計画ミーティング

- 2回開催
- 延べ26人参加

## 成果

開園後の協議会体制、  
植生管理、湿地の公開、  
情報発信等に関する検討

## 今後の取組み・課題

協議会の規約の見直し等  
開園に向けた継続検討

## 湿地の公開・非公開の考え方

不特定多数の立ち入りによる生態系への過剰な負荷や盗掘等による持ち出し被害を避けるなど、湿地における貴重種保護の観点から、立ち入りや情報発信に際して一定の制限を設けることとし、以下の考え方により各湿地を「公開」または「非公開」に分類する。

- すべての湿地において、踏圧による過剰な負荷等を防ぐため、湿地内への立ち入りは原則禁止とする。
- 「公開」とする湿地については、一般利用者は園路や木道、デッキ等からの観察のみ可能とし、保全活動や観察会等の利用プログラムの際に限り、専門知識を有する者の指導のもと湿地内への立ち入りを可能とする。
- 「非公開」とする湿地については、専門知識を有する少人数による保全活動の際のみ立ち入り可能とし、湿地に関する情報（場所等）の公表についても制限を設ける。

利用内容	考え方	
	公開	非公開
一般利用 [園路等からの観賞等]	◎ 常に可能	× 不可（園路接続無し）
利用プログラム [観察会・環境学習等]	○ 専門的知識を有する者の指導のもと 実施可能	× 不可
保全活動	○ 専門的知識を有する者の指導のもと 実施可能	○ 専門的知識を有する者の指導のもと 実施可能
情報発信	◎ 可能	× 不可
対象とする湿地	A, G, H, J	B, C, D, E, F, I

# 活動報告 (4月1日～11月21日)

## ④ 信太山里山講座

- 受講生(申込者)25人  
※うち新規申し込み8人
- 環境保全活動(選択講座)を  
1回から6回に増加

### 成果

広報先の拡大  
環境保全活動への参加の  
機会が増加

### 今後の取組み・課題

受講生が集まらない  
各回の受講生が減少

第1回(9月)



第2回(10月)



第3回(11月)



# 活動報告 (4月1日～11月21日)

## ⑤ 自然観察会

- 1回開催  
第1回: 令和5年9月16日  
※プレイベントと同日開催
- 第1回参加者47名(17組)

### 成果

広報の工夫による応募増  
モニタリングも兼ねた  
新規プログラムの試行

### 今後の取組み・課題

適切な参加人数と  
受入れ体制の検討



確認できた生き物数：35種

チョウ：7種



トンボ：3種



バッタ：15種



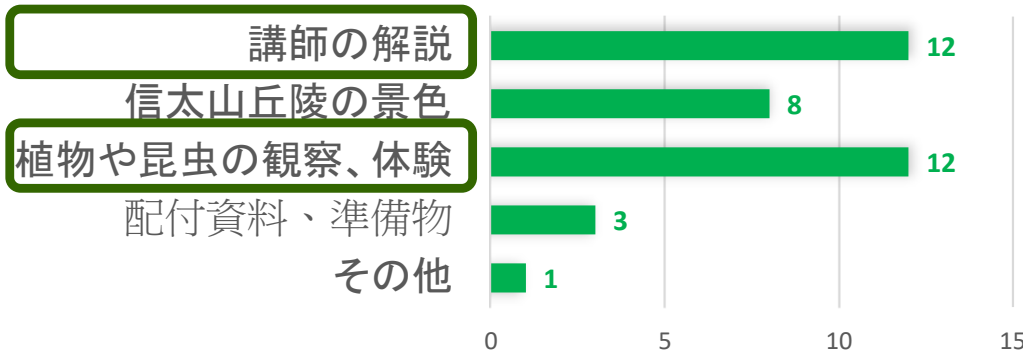
カメムシ3種、オオカマキリ、ナナホシテントウ、ジョロウグモ、ルリチュウレンジ、メダカ、ニホンアカガエル、ニホンカナヘビ

# 参加者アンケート結果（抜粋）

■ 今回の「自然観察会」の、良かったところは？  
（複数回答可）



昆虫に詳しい講師の充実が  
評価につながった



■ 信太山丘陵にあったら良いなと思うもの（自由記入）

- 虫取り放題のイベント
- 植物や虫の説明看板
- 木々にネームホルダー
- アスレチック
- 喫茶店
- 自販機
- 自然のままでOK
- 東屋、地図、動植物や地質の  
問い合わせ窓口、説明版

信太山丘陵の自然環境  
そのものへの評価高い



信太山丘陵の自然環境に  
関する情報提供へのニーズ

# 活動報告 (4月1日～11月21日)

## ⑥ 湿地植生調査(春夏秋3回)

- 例年通り湿地10箇所を実施
- 水質調査(pH、電気伝導度)を追加

### 成果

継続的な貴重種の確認  
保全活動による生物の生息  
環境の創出

### 今後の取組み・課題

引き続き湿地調査を継続  
水質調査結果の湿地管理への  
反映の検討

確認されたおもな貴重種



トキソウ(5月、F,C,D湿地で確認)



サギソウ(9月、F湿地で確認)



# 活動報告 (4月1日～11月21日)

## ⑦ プレイベント

- 令和5年9月16日(土) 10～15時
- 延べ参加者263人
- 全10プログラム(屋外7、屋内3)
- 管理棟内での**展示**

### 成果

公民協働によるプログラムの実践ができ、大勢の参加があった

### 今後の取組み・課題

運営体制と規模のバランス、屋外イベントの開催時期の検討

## しのだのあそび

